



2022年度年末手当交渉に対する中央本部見解

－ 基準内賃金の2.4ヶ月分に20,000円を加えた額とする －

これが、この2年間の苦しみのなか、決して逃げずに安全を基礎とした事業運営に取り組んだ私たちに対する会社回答である。

JR東日本グループに集うすべての仲間が黒字化を実現させたことを正当に評価せず、要求に応えようとしないうる経営姿勢に、組合員・社員の感情は最高潮に達し「不満」「失望」「怒り」しかない！そして「社員のことを何も考えていない会社だ！」これが偽らざる真実の声である。

私たちは、第5回定期大会以降、要求づくりから団体交渉まで4ヶ月間のたたかいを積み上げてきた。そのたたかいを結実させた申10号ならびに申14号は、生活に困窮する現在を回避し、未曾有の物価上昇に対し健康で文化的な生活の保障を求めるためのものだ。しかし交渉では「社員の生活に責任を持つ」と回答しながらも「生活のために賃金を支払っているのではない」と相反する考えを並べ立て「業績が厳しいことからギリギリの判断をした」と黒字経営下における低水準の支給額の正当さを繰り返した。生活の豊かさを求める輸送サービス労組と、業績を優先するJR東日本の対立が余儀なくされ、団体交渉は終了した。

よって、中央本部は「未曾有の物価上昇に対し健康で文化的な生活の保障を実現する緊急集会」を開催し、4ヶ月間に及ぶ年末手当交渉に区切りをつけつつ、今後の取り組みとして、以下の4つの視点に基づく職場討議と運動を全職場から開始することを確認した。

- ・2023年賃金引上げに勝利するため、職場からの要求づくりと職場体制の確立を図る
- ・定期昇給カット分（2021年4月）も上積みされた物価上昇分を補填する手当要求をおこなう
- ・JR東日本の設備投資計画の是正見直しを求める
- ・輸送サービス労組を強化し、多くの仲間を結集させる職場からの運動づくりをおこなう

私たちの運動の到達点は、「組合員の生活の豊かさ」が実感できることにこそある。その課題が解決されるまで、その歩みを止めることなく、すべての仲間と共に進み続ける。

すべての仲間のみなさん

私たちを取り巻く環境は、世界的な気候危機や核戦争の危機が迫るなど、眼を覆いたくなることばかりだ。今を生きる者として、この大変革期の真只中から逃げず、すべての英知を結集し、困難に立ち向かわなければならない。

本日、八王子駅パンフ配布処分事件は結審を迎え、来春の勝利命令を待つだけになった。また脱退パワハラ訴訟は「あったことをなかったことにはできない」と職場から訴えたたたかい抜いてきた仲間が証言台に立ち、すべての真実が満天下に明らかにされる。規制と排除、差別を許さず健全なJR東日本を取り戻すための「正義」を求めた私たちの勝利は目の前だ。

今こそ、輸送サービス労組の強化を図り、多くの仲間を迎えよう！鉄道開業150年は、その明るい未来を創造する第一歩だ。JR東日本に働くすべての仲間たちの笑顔が絶えない、明るく希望に満ちあふれた職場をつくりあげるために「輸送サービス労組未来ビジョン」の実現を目指して大きく歩み出そう！

2022年11月14日

JR東日本輸送サービス労働組合

年末手当交渉に対する中央本部見解発出！